



さくら 2005 秋

発行
社会福祉法人 東桜会
第 9 号
〒420-0962
静岡県葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

職場への思い

麻機園 看護長 林 壽子

平成 13 年 3 月 31 日に 33 年間勤めました静岡市立病院を定年退職致しました。退職後はデイサービスセンターで 3 年間勤め福祉の仕事に関心を持つようになりました。昨年 4 月に縁があって麻機園で働かせていただき 2 年目になります。

医療の現場では看護を通して非常に多くのことを学び体験してきました。救急救命の厳しさ、命の尊さ、生きることの大切さ、家族への思いやり、悲しみ、よろこび等まだまだありますが、いかなる場面でも人と人とのかかわりを大切に、後悔のないように、その時を精一杯頑張ってきました。介護の現場においても、命の尊さ、生きることの大切さ、家族への思いやり、人と人とのかかわりの大切さ、難しさは変わりないと思います。

特養は、介護を必要とされるお年寄りの生活の場です。利用される皆さまには、寂しさを癒し、毎日楽しく有意義に過ごしていただき、幸せを実感できるような麻機園でありたいと思っています。私は若い寮母さん達が明るく生き生き働いている麻機園が好きです。私も一緒に働いていると若返ったような気がします。

7 月より看護長という役職に就くことになり、私の役割は“働いている仲間一人ひとりが自分の意見や考えを十分に話すことができる環境を整えること”“一人ひとりの意見や忠告に充分耳を傾け、その内容を評価し、有益なものを素直に受け入れ、楽しく働きやすい職場を整えること”“一人ひとりの持つ能力を十分に発揮できる職場づくりに努めること”と考えました。そして厳しい中にも楽しい職場でありたいと願っています。このような職場づくりが自ずと利用される皆さまやご家族に理解され、幸せを実感できる麻機園になれることを信じております。

私は病院退職後は自分の健康、家族の健康、幸せを大切に、第 2 の人生をゆとりを持って過ごすことを望んでおりましたが、今回のご縁を大切に、働くことに再び喜びを感じています。どうぞ宜しくお願い致します。



どんな仕事なの？

- 麻機園 生活相談員 梅原昭子 -

「生活相談員ってどんな仕事なの？」と周囲の人からよく尋ねられる。私はなんて答えたらいいかわからず、つい「できることを、なんでもやる仕事」と答えてしまう。質問した人は、きっとチンプンカンプンだろうなと思いつつながら…。

私自身、「生活相談員の仕事とは何だろう？」と疑問に思いながら、麻機園で働き始めた。3 年以上経った今でも明確な答えを見いだせていない。ただ、入所者・実習生・入所相談者等、多くの人々と出会える職場で「縁あって時間を共にした人が、一瞬でも“幸せ”を感じていただけるように、笑顔を見せていただけるように、心を尽くしていきたい」と思っている。私にとって、心からの笑顔を見せていただけることが、生きるエネルギー源になっているからだ。そしていつか私自身が、笑顔の源・元気の源になれば、太陽のような存在になれるといいなと、夢見ている。そのためにも、今は「できることをなんでもやろう」として「できることを、少しずつ増やしていこう」と思っている。



受け入れられる心

- 麻機園デイサービスセンター 介護職員 牧野晴美 -

17年ぶりに私の両親と同居することになり、ある日仕事から戻ると、水道の水が出しっぱなしになっていた。居間にいた母が慌てて「止めるの忘れていた」と部屋から出てきた。こんな事が2、3度続き、他にも電化製品の使い方がわからず壊してしまったり、昔はできていた事ができなくなっていた。主人は「歳をとったから仕方ない」と言うが、私はショックだった。17年の間に私の知っていた両親は、“老人”という存在になっていた。両親はいつも私のことを心配し、歳をとったり、忘れっぽくなったりすることはないと思っていた。だから、歳をとった母を素直に受け入れることができず、虚しくて釈然としない気持ちでいた。



ある日、利用者のMさんのところに娘さんが面会に見えたとき、Mさんは「こんにちは」と他人行儀に挨拶をして部屋から出て行ってしまった。娘さんは「娘の顔も忘れちゃって情けない」と苦笑いしながら私に寂しそうに言い、私は返す言葉が見つからなかった。この方は自分の親が歳をとってしまったことをどんな風に受け入れたのだろうか？

今年、4年半勤めた特養からデイサービスへ異動になり、不安で寝不足のまま、初日の朝を迎えてそわそわしていた。そんな気持ちを察したのか、母が「あんたはデイサービス一年生なんだから、わからない事があっても仕方ないよ。皆さんに教わりながら、気楽にね」と声を掛けてくれた。確かに特養とは違い、おしぼりの巻き方や入浴介助の仕方、そして利用者が毎日替わる。わからない事ばかりで本当に一年生だった。自信がなくなり、動きも鈍く笑顔もでない時間が続いた時、利用者から「あなた初めて見る顔ね、そのうち慣れるよ、頑張ってるね」と声を掛けられハッと、母の言葉を思い出した。すると不思議と肩の力が抜け、笑顔で接することができ、これも利用者や母の暖かい言葉のおかげと感謝した。

介護の仕事をするようになり、たくさんのお年寄りと接することで、教えてもらったり、時には励まされたりしている中で、自分の親が歳をとっていくという現実を受け止められず、悪いことしか思えなかった自分が情けなく、ちっぽけな人間に思えた。自分だって歳をとっていくのに…

デイサービスで働くようになり、利用者の家族と接する機会がたくさんあり、皆さんいろいろな悩みを抱えていて、それを受け止めていることを知った時とても楽になり、私も皆さんのようにいろいろなことを受け止められる、心の広い厚みのある人間になりたいと思う。



「おっかながり」

麻機園 寮母 近藤とみ子

私のあだ名は「おっかながり」です。入所者のKさんが寮母になった私につけてくれたすばらしいあだ名です。Kさんはあだ名をつける名人です。前理事長の奥様が、毎年おひな様を出してくれるので、「ひなの母さん」と…他にも寮母の特徴をよくつかんだあだ名をつけてくれます。私の亡くなった母に面影が似ているので、Kさんと話をすると母を思い出します。

私は麻機園で9年間調理の仕事をしていました。その後、厨房が委託になり、それを機に寮母の仕事に就いたのですが、その時すでに年齢が五十歳近くになっていました。腰痛を抱えていたこともあり、私に寮母の仕事が動まるのだろうか？と悩みました。入所者のみなさんどう接していけばいいのだろうと本当に考えました。幸い厨房で長く働き、みなさんの名前や顔は覚えていたので、まず私からあいさつと声掛けが大事！と思い、実行してみました。すると、あら、ご飯を作っていた近藤さんね！とみなさんから声を掛けて頂けたので、今でも本当に嬉しかったことを思い出します。厨房と違い、毎日入所者の方と接し、戦争や苦労話など（私の育った時代と違つので…？）いろいろな話ができとても楽しいです。

もう、寮母になって8年経つのですが、今もKさんからは「おっかながり」と呼ばれます。私は自信を持ち、落ち着いて仕事をしているつもりなのに、Kさんにはまだまだ一人前とは思われていないのかな？でも、私はこの名前が呼ばれることが大好きです。

入所者の皆様も、毎日楽しく、一日でも長生きしてほしいと心より願っています。そのために寮母全員でより良い施設を目指し頑張りたいと思います。

